

## 採択事業 NO.7

種 別：行政提案型

団体名：たからづか縁卓まちづくりネット

事業名：高齢者から子育て世代、子どもまでの交流によるお互いさまのまちづくり

交付決定額：202,000 円

### （事業を行おうとした動機・必要性）

宝塚市は平成27年に“高齢者にやさしいまちがあらゆる世代にやさしいまちになる”というWHOグローバルネットワーク「エイジフレンドリーシティ」に参加し、平成30年度から市民参加による縁卓会議が発足させました。その中に、子育て支援世代が集い情報交換を行う「居場所」部会、高齢者が無理のない範囲で介護施設等で短時間就労を行う事業を推進する「健康・生きがい就労」部会、諸活動の情報発信を行う「広報・情報」部会が作られ、約4年間活動し、各々の成果をあげました。

本事業は、その縁卓会議の後継として上記3部会の主要メンバーが、以下の2つの視点で「お互いさま」があふれるまちづくりを発展させようと再結集して行うものです。

私たちは、「まちのつどい場ここおる」という世代間交流施設の運営をしながら、さらに少子・高齢化が進みつつある中、地域社会の将来に危機感を感じながら、将来も住み続けたいまちづくりについて、自分たちなりに議論し検討しています。

#### ① 子育て（少子化）の視点

宝塚市の合計特殊出生率は長期的に低下傾向にあり、直近令和4年度は1.15と全国平均や兵庫県平均をも下回っています。

最近の若い女性は、核家族化・少子化の影響で周囲の人たちの子育ての様々なやり方を見たり、子どものお守りをするなどの経験をするのがなく、つまり子育ての予習をすることなく大人になっている場合が多く、片やネット情報に振り回され、さらには転勤族も多く、地域で孤立する人が多いため私たちのグループの中でしばしば語られています。子どもを産み育てることもいいかな、もう一人産んでもいいかな、と子育てしやすいと思えるような地域社会を作っていく必要を感じており、そのために私たちでできることをしていきたいと思っています。

#### ② 高齢化の視点

市の人口の約3割を占める高齢者は25年先には4割に達すると推計されており、この圧倒的ボリューム層である高齢者の活躍なくして地域社会は成立しません。

定年後や子育てを終えた後30～40年の人生をいかに充実させるかが人生100年時代の大きな課題となっており、将来自分たち、地域の支え手になっていく次世代支援は発達心理学という人生発達課題のテーマ「次世代に対する貢献」でもあります。リタイア後の孤立・孤独や失われがちな自己肯定感を取り戻し、社会とのつながりをより深め、頭や体を動かし認知症予防、介護予防の観点からも、シニアの地域での活躍の場づくり

の必要性を感じています。

### （事業を行う目的と期待される効果）

昨年行った 3 つの事業①情報誌の制作・発行、②世代間交流イベントの実施、③啓発講演会の実施について一定の実績づくりができたので、一部形を変えながら継続していきます。

#### ＜効果の広域性＞

①は、宝塚市社会福祉協議会関連組織、まちづくり協議会の協力を得ることで市内広範囲に活動事例取材、投稿が集まり、参加された方々に喜ばれたため、今年も引き続き行います。

②は、市内各所で活動しているこもたのプロジェクトと連携して今年も実施します。

③は、ファミリーサポートセンターと協働イベントを企画するなど今年も引き続き宝塚市子ども未来部子ども家庭支援センターと連携し、全市域の活動として実施します。

#### ＜独創性＞

シニア世代は子育て世代、子ども世代を支援することを体系的に行う取り組みは全国的にも珍しいと思います。一般的に活動対象を、シニア世代、子育て世代、子ども世代のどれかにしている場合が多いのですが、お互いさまのまちづくりのため、単にそれらが交流し相互に理解しあえる場を提供するだけでなく、①シニアの就労的活動などにより居場所・社会のとの関わりづくりを②子育て世代の時間や心理的な課題解決につなげ、③子どもとシニアのコミュニケーションにより子どもの発達だけでなくシニアも元気にし認知症予防等に役立てるなど、相互に具体的な役割を持ち Win-Win の関係を作ることを目的としています。

#### ＜継続性＞

本活動のようなまちづくり活動は一朝一夕にできるものではなく、市民への啓発から活動の実現まで中・長期的に社会全体の意識を変えていくことが必要です。今後は情報誌での広告収入や寄付集め、他団体とのコラボなど資金面を含めた持続可能性を検討していきます。

### （事業の内容）

昨年度は、活動初年度として情報誌の発行、交流イベントの実施、啓発講演会の実施をしましたが、今年度は前年度の経験をもとに以下の 2 事業を実施します。

- ① シニア向け孫育て情報誌「もちつもたれつ」第 2 号の制作、発行

制作開始時期 7 月、発行時期 10 月

（社会福祉協議会主催の宝塚市福祉大会までに発行）

以後、宝塚市福祉フェア等で配布

発行部数 初期 3,000 部 必要に応じて増刷

- ② シニア・子育て世代・子ども交流イベントの企画・運営

12 月 1 日（日）こもたのカーニバルとの共催実施

こもたのカーニバルとの運営調整、「もちつもたれつ」の配布、しゃぼん玉遊び、ドローン工作、紙芝居等の実施